

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Maternal fermented food intake and infant neurodevelopment: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

母親の発酵食品摂取と乳児期における神経発達

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition

年: 2024 DOI: 10.6133/apjcn.202403_33(1).0008

筆頭著者名: 田中 朋美

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

妊娠中の母親の発酵食品摂取と子どもの乳児期における神経発達について、その関連を検討する。

方法:

103,062 組の参加者の中から、条件を満たした 73,522 組の母子を対象とした。母親の妊娠中の発酵食品(味噌汁、ヨーグルト、チーズ、納豆)の摂取量については、妊娠中の食物摂取頻度調査票にて評価した。また、子どもの発達については、1 歳時の ASQ-3 質問票を用いて5つの領域(コミュニケーション、粗大運動、微細運動、問題解決、個人と社会)について評価し、多変量解析にて検討を行った。

結果:

妊娠中の味噌汁や納豆の摂取が多い群では、少なかった群に比較して、子どものコミュニケーション領域における遅れの割合が少なかった。また、納豆やチーズの摂取が多い群では、少なかった群に比較して、子どもの微細運動および問題解決領域の遅れの割合が少なく、味噌汁やヨーグルトやチーズの摂取が多い群では、少なかった群に比較して、子どもの個人と社会の領域における遅れの割合が少なかった。

考察(研究の限界を含める):

妊娠中に母親が発酵食品を摂取することにより、子どもの乳児期における神経発達の遅れを減らすことができる可能性が示唆された。ただし、明かな用量依存関係が認められない場合もあったため、解釈については注意が必要である。また、本研究はコホート研究であるため、因果関係にまで言及することはできない。

結論:

妊娠中の母親の発酵食品の摂取量は、子どもの乳児期における神経発達の遅れを減らすことと関連することが示唆された。